

**International Workshop on  
Information System for Social Innovation 2009 (ISSI2009)  
社会イノベーションを誘発する情報システムに関する国際ワークショップ**

2009. 9. 30

東倉洋一

挨拶

東倉（とうくら）です。

主催者を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

生物の系統分化によると、人は 600 万年前にチンパンジーから分かれたことがわかっています。

したがって、私たちの体を構成する DNA の塩基配列（\*1）を調べてみると、人とチンパンジーは 98% が一致しているわけです。

しかし、600 万年を経た現在はどうでしょうか？

チンパンジーは、「絶滅のおそれのある生物種のレッドリスト」で 絶滅危惧種に指定されていますが、人は、地球を自分たちだけのもののように好き勝手に暮らしています。

この違いは、何が原因となって起こったのでしょうか。

最大の原因の一つは「言語の獲得（\*2）」です。映画の「猿の惑星」でも、言語がキーワードになっていたことを思い出します。言語によって、コミュニケーションを学び、集団の知恵を共有することが可能になりました。

さて、現在の情報通信社会において、人が、ICT、すなわち情報通信技術（\*3）という道具を手に入れたことは、人類の歴史において、「言語の獲得」に匹敵するものと考えています。

ICT は、人類が直面する地球環境、戦争、貧困、食糧、伝染病などの課題を克服する潜在的な可能性を持っていると信じているからです。

しかし、ICT は、人とチンパンジーの場合のように、ICT を自由に使いこなす人、ICT を自由の使いこなす環境の整った国だけを利することになっては、個人や国などの格差を増大させ、却って問題を大きくするだけです。

ICT の生み出す新しい価値は、それが大きければ大きいほど、人類全体の知恵として、平等に享受すべきものと考えます。

私は、ICT の進展は、自動車の発展にたとえることができると 생각합니다。今の社会で、自動車は人やモノの移動に不可欠なものになりました。しかし、自動車の社会に対する影響は、良いものばかりではありません。交通事故や渋滞の問題は早期に顕在化したリスクで

すが、比較的最近になって、環境問題やエネルギー問題などのリスクも重視されてくるようになりました。

そして、これらの問題に対して、道路交通法などの法的対応とともに、環境対応技術や ITS などの技術的挑戦で対抗を続けています。

自動車の場合と異なり、ICT の場合は、情報セキュリティやプライバシーの問題など、顕在化しているリスクは、氷山の一角に過ぎないという認識が必要です。ICT は、可能性が大きく、その影響が瞬時に全世界に広がることを考えると、極めて大きなリスクが潜在化していることに注意する必要があります。

この ICT のリスクを最小限に抑え、可能性を最大限に引き出すためには、全世界の知恵を集めたグローバル・リスクマネージメントが不可欠であると思います。

本日の ISSI ワークショップが、このような研究課題にグローバルに取り組むきっかけになることを願っています。

ありがとうございました。

- \* 1 DNA Base Sequence
- \* 2 Acquisition of a language (language acquisition)
- \* 3 Information and Communication Technology (=ICT)